大規模 GBR を回避するためのリッジプリザベーション
–強化フレーム付き Ti ハニカムメンブレンを用いた
オープンバリアメンブレンテクニックの可能性–

抜歯後の変化としての歯槽骨吸収は経験的にもよく知られており、インプラント埋入時に我々臨床医をしばしば悩ませる。特に唇（頬）側骨の厚みが薄い部位における抜歯後の歯槽骨吸収は、時に深刻な状況を生み出し、ブロック骨移植や強化フレーム付き非吸収性メンブレンなどを用いた大規模な GBR を行う必要が生じることが多い。そのため、そのような状況になることを回避するために、近年、抜歯後の歯槽骨の吸収を抑制するリッジプリザベーションが注目されており、様々な骨補填材やメンブレンを用いた術式が報告されている。そのような中、リッジプリザベーションの目的も従来の「歯槽骨吸収の拡大抑制」から、「骨吸収を有する抜歯窩外側に抜歯と同時に GBR を行う」という概念まで、その適応が広がってきている。その一方で、使用されている骨補填材やメンブレンの種類が多く、どのような状況でどの材料をどのように用いるべきなのかがクリアではないと感じている。そのため、本日は、それぞれの材料にどのような特徴があるのかについて、また、現在用いられている各種術式について、現在報告されているエビデンスからわかりやすくまとめてみたいと思う。そのうえで、「抜歯と同時に歯槽骨を造成（GBR）する」ことを目的として我々が用いている、「強化フレーム付き Ti ハニカムメンブレンを用いたオープンバリアメンブレンテクニックの可能性」についても言及したいと思う。

語句補足説明

リッジプリザベーションとは、「抜歯後の変化として生じる歯槽堤の硬・軟組織の吸収に伴う体積の減少を抑制する処置」のことを指す。一方で、骨補填材を抜歯窩に填入する処置を指すソケットグラフト（socket graft）や、吸収した抜歯窩壁の造成術（ridge augmentation of extraction sockets ）などのより細分化された語句があるが、本講演においてはこれらを抜歯時に行う一連の処置としてまとめてリッジプリザベーションという語句に含めてお話する。

略歴

2001 年　岡山大学歯学部卒業

2005 年　おだデンタルクリニック開業

2012 年　岡山大学大学院医歯薬学総合研究科卒業　博士（歯学）取得

2018 年　岡山大学病院　診療講師

2021 年　岡山大学大学院医歯薬学総合研究科インプラント再生補綴学分野　非常勤講師